

春日那珂川水道企業団
水道事業ビジョン2021
第1次
前期実施計画
令和3年度～令和6年度



令和4年4月策定
春日那珂川水道企業団

目 次

1. 水道事業ビジョン2021前期実施計画の策定にあたって	
(1) 春日那珂川水道企業団水道事業ビジョン2021	1
(2) 前期実施計画の策定趣旨及び位置付け	2
2. 水需要等の見込	
(1) 給水人口・1日平均給水量	3
(2) 有収水量・料金収入	4
3. 事業計画	
(1) 施策体系	5
(2) 主要事業計画	6
① 基本方針1 安全・安心な水の供給	6
② 基本方針2 災害に強い強靭な水道の構築	9
③ 基本方針3 安定的な事業運営の持続	13
4. 財政の見通し	
(1) 前期実施計画における財政の見通しの概要	20
(2) 収益的収支	21
(3) 資本的収支	22
(4) 企業債残高	23
(5) 財政収支実績	24
(6) 財政収支見通し	25
5. 進捗管理と計画見直し	
(1) 進捗管理	26
(2) 事業評価と計画見直し	26

1. 水道事業ビジョン2021前期実施計画の策定にあたって

(1) 春日那珂川水道企業団水道事業ビジョン2021

春日那珂川水道企業団では、人口減少による料金収入減少、施設の老朽化・耐震化、人材育成、技術の継承といった、環境の変化や事業の課題に対応し、計画的・戦略的に水道事業の経営に取り組んでいくことを目的として、令和3（2021）年度から令和14（2032）年度までの12年間を計画期間とする「春日那珂川水道企業団水道事業ビジョン2021」（以下「水道事業ビジョン2021」という。）を令和3（2021）年3月に策定しました。

水道事業ビジョン2021においては、「安全・安心を未来へつなぐ かすがなかがわの水道」を 基本理念として国が新水道ビジョンで示した水道の理想像「安全」、「強靭」、「持続」も踏まえつつ、今後の春日那珂川水道企業団が目指すべき方向性を定め、その実現に向けて取り組むべき3つの基本方針を設定しています。

基本理念

安全・安心を未来へつなぐ
かすがなかがわの水道

基本方針

安全・安心な
水の供給

災害に強い
強靭な水道の構築

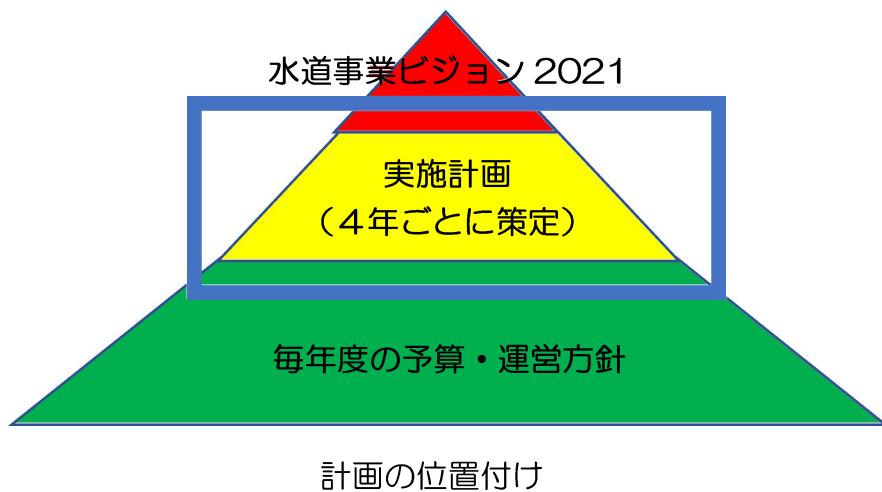
安定的な
事業運営の持続

基本理念及び基本方針

(2) 前期実施計画の策定趣旨及び位置付け

前期実施計画は、水道利用者のニーズに的確に対応し、効果的な事業の推進を図るため、水道事業ビジョン2021において定めた主要施策及び実現方策の具体的な内容及び実施時期等を明らかにするものです。

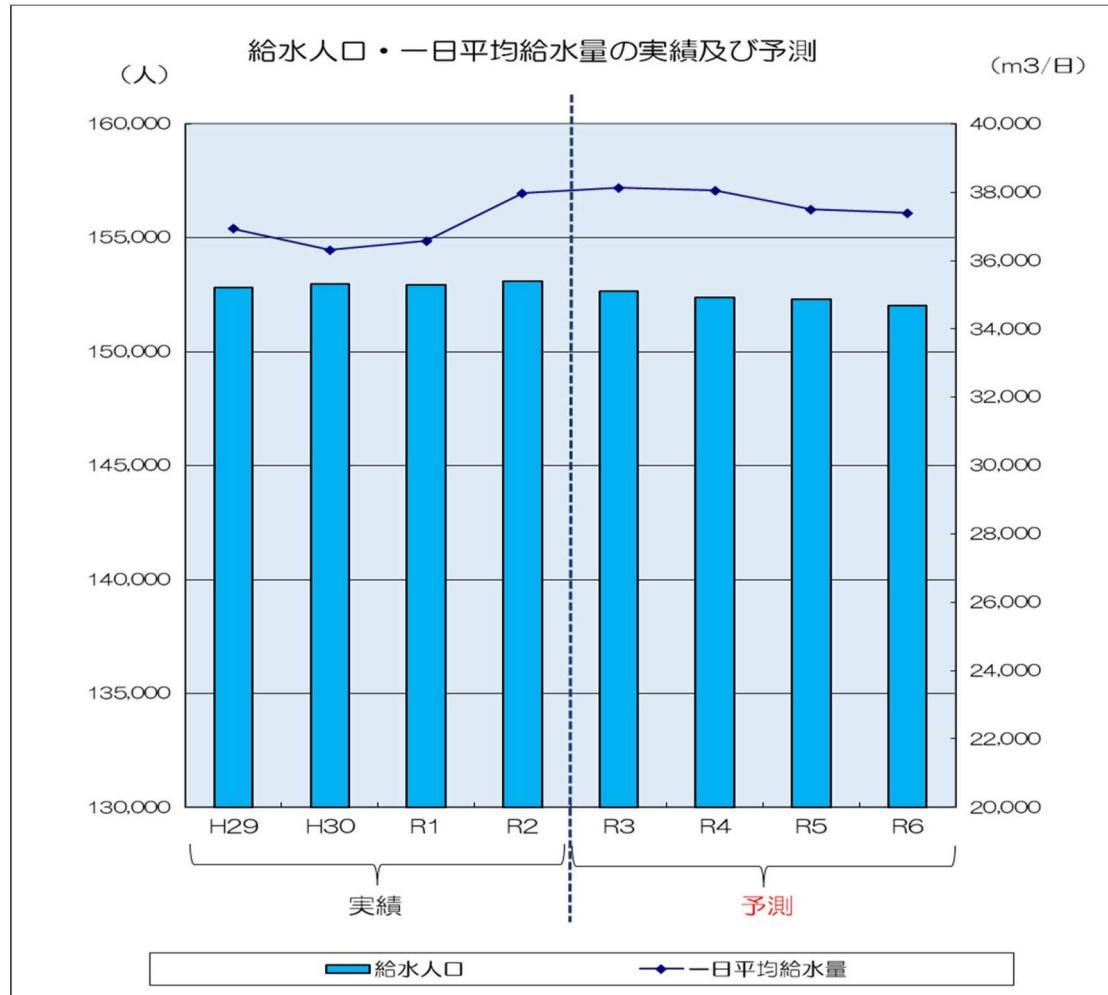
計画期間は、4年間を単位とします。この計画に基づき毎年度の予算や運営方針を策定し、効果的・効率的に事業を推進していきます。



R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14
前期				中期				後期			
事業計画に沿った 事業運営	点検 ・見 評直 価し										
計画期間											

2. 水需要等の見込

(1) 給水人口・1日平均給水量



	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
給水人口	152,810	152,982	152,920	153,112	152,662	152,380	152,284	152,006
一日平均 給水量	36,929	36,306	36,576	37,978	38,129	38,055	37,493	37,394

実績

予測

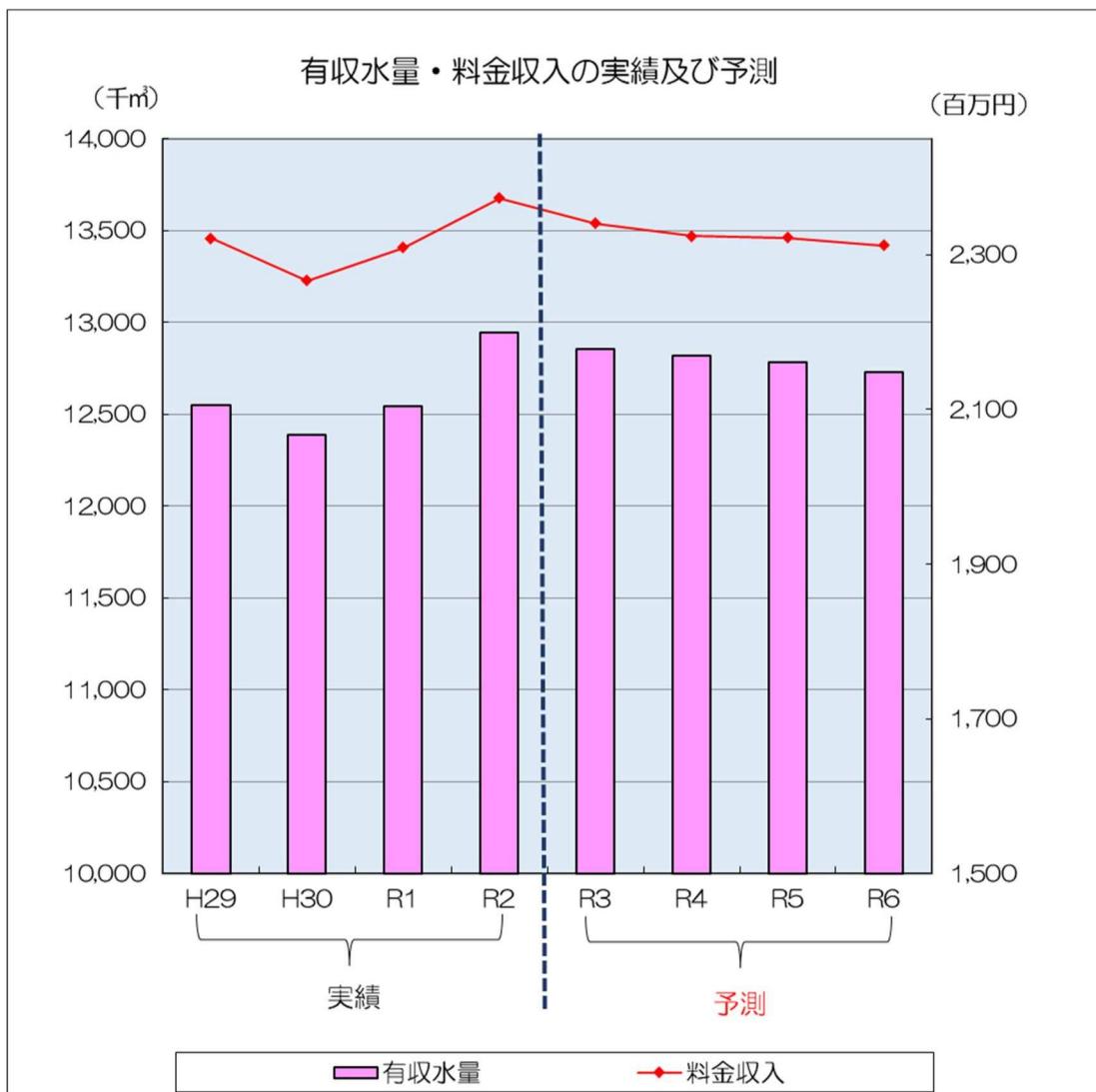
給水人口について

給水人口は、R2をピークに減少すると見込まれます。

1日平均給水量について

1日平均給水量は、給水人口同様、R2をピークに減少すると予測していますが、新型コロナウイルスの影響で、R3及びR4はR2よりも増加すると見込まれます。

(2) 有収水量・料金収入



	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
有収水量	12,549	12,389	12,545	12,946	12,855	12,819	12,782	12,728
料金収入	2,321	2,266	2,309	2,373	2,340	2,324	2,322	2,312

実績

予測

有収水量について

有収水量は、給水人口同様、R2 をピークに減少すると見込まれます。

料金収入について

料金収入は、有収水量同様、R2 をピークに減少すると見込まれます。

3. 事業計画

(1) 施策体系

前期実施計画では、水道事業ビジョン2021において基本方針の達成に向け体系的に整理した「主要施策」及び「実現方策」に基づき各事業を着実に実施していきます。

基本理念	基本方針	主要施策と実現方策
安全・安心を未来へつなぐ かすがなかがわの水道	安全 1 安全・安心な水の供給	1-1 自己水源の安定化 (1) 自己水源の安定化と水源確保 1-2 水質管理の徹底 (1) 水安全計画の適正な運用と見直し (2) 水質管理 (3) 水質検査体制の充実 1-3 良質な水道水の維持 (1) 鉛製給水管の解消促進 (2) 配水管の維持管理の促進 (3) 貯水槽水道維持管理の促進
	強靭 災害に強い 2 強靭な水道の構築	2-1 水道施設の耐震化と更新 (1) 净水施設の耐震化と更新 (2) 配水施設の耐震化と更新 (3) 管路の耐震化と更新 2-2 危機管理対策の充実 (1) 応急給水体制の充実 (2) 危機管理訓練の実施 (3) 災害用資機材等の備蓄 (4) セキュリティ対策の充実
	持続 3 安定的な事業運営の持続	3-1 経営の効率化 (1) 経費の節減 (2) 外部委託化の推進 (3) 組織の合理化と定員管理の適正化 (4) 広域化の検討 (5) 業務の効率化と高度化 (6) アセットマネジメントによる効率的な経営 (7) 国・県への要望 3-2 お客さまとのコミュニケーション (1) 水道事業の啓発 (2) 広報広聴活動の充実 3-3 給水収益の確保 (1) 水道料金収納への対応 3-4 人材育成と技術の継承 (1) 職員の技術水準の確保 3-5 環境への配慮 (1) 環境に配慮した事業の推進

(2) 主要事業計画

基本方針1 安全・安心な水の供給



1－1 自己水源の安定化

実現方策	(1) 自己水源の安定化と水源確保	事業費 (R3～R6)	108,375
将来にわたり安全な水道水を供給できるように自己水源の安定化を図るとともに、水源の確保に努めます。			
企業団の水源は、天気の影響を受けやすい脆弱な水源も含まれることから、今後も、安全な水を安定的に供給するため、あらゆる方法を検討し水源の確保に取り組みます。			
事業名	R3	R4	R5
恒久水源確保	完了		
事業費（千円）	55,956		
自己水源の安定化	継続実施		
	設計・工事		
事業費（千円）	23,526	28,893	



1－2 水質管理の徹底

実現方策	(1) 水安全計画の適正な運用と見直し	事業費 (R3～R6)	-
水源から蛇口にいたるまでには、水道水の安定供給に支障をきたす様々なリスクが存在します。そのため、これらのリスクレベルごとに対策を講じた「水安全計画」を平成30（2018）年度に策定しています。この計画は、新規水源の開発と同時に作成されたため、水源や運用状況が変更になった場合は見直しが必要となります。そのため、今後はこの計画を状況に応じて見直し、適正に運用します。			
事業名	R3	R4	R5
水安全計画	継続実施・運用		

実現方策	(2) 水質管理	事業費 (R3～R6)	-
毎年度末に次年度の水質検査計画を策定し、ホームページで公表しています。また、平成24（2012）年4月から、より安心、安全でおいしい水道水を供給し、飲用していただくことを目的として、国が定めた水質基準値等より厳しい企業団独自の水質管理目標を設定し、水質検査を実施しています。今後も「水質検査計画」に基づき、水質管理の徹底に努めます。			
事業名	R3	R4	R5
水源パトロールの実施	継続実施		

実現方策	(3) 水質検査体制の充実	事業費 (R3～R6)	-
水質から蛇口に至るまでの水が安全な水質であることを実証するため、水質検査は、水道GLPを取得している福岡地区水道企業団水質センターへ委託しています。今後も水質検査結果の信頼性を高めるために同水質センターと緊密な連携を図り、水質検査体制の充実に努めます。			
事業名	R3	R4	R5
水質検査計画の定期的な見直し	毎年度見直し		

1－3 良質な水道水の維持

実現方策	(1) 鉛製給水管の解消促進	事業費 (R3～R6)	-
鉛製給水管は、材質がやわらかく加工しやすいことから、企業団も平成5（1993）年頃まで使用していましたが、経年化による漏水の原因となっていること等を考慮し、鉛管に変わる新しい管材料に取り替えを進めています。公道下に埋設された配水管から分岐した鉛製給水管（約1m）の解消については、配水管布設替や、漏水修理による取り替えを逐次進め、安心・安全な水道水の供給が継続的に図られるように努めています。			
事業名	R3	R4	R5
鉛給水管の更新と周知		継続実施	R6

実現方策	(2) 配水管の維持管理の促進	事業費 (R3～R6)	16,451
給水区域内に張り巡らされた配水管から漏水すると、大切な水が無駄になるだけでなく、道路の浸水や陥没などが発生し、大きな影響を及ぼします。また、浄水・配水等の経費増加を招き、経営効率の低下に繋がります。企業団では、給水区域を分割し、計画的な漏水調査を行い維持管理の促進に努めています。			
事業名	R3	R4	R5
漏水調査の実施	4か年計画による調査の実施		R6

実現方策	(3) 貯水槽水道維持管理の促進	事業費 (R3～R6)	-
貯水槽水道の管理については、貯水槽における水質の悪化を防止するため設置者は、貯水槽の定期的な点検や清掃などの維持管理を行うこととなっております。企業団では、広報紙やホームページ等で情報の周知と啓発を引き続き実施します。			
事業名	R3	R4	R5
貯水槽水道維持管理の促進		継続実施	R6

基本方針2 災害に強い強靭な水道の構築

基本方針

災害に強い強靭な水道の構築

主要施策

2-1 水道施設の耐震化と更新

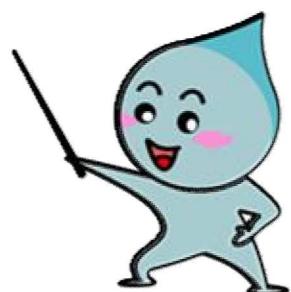
2-2 危機管理対策の充実

2-1 水道施設の耐震化と更新

実現方策	(1) 浄水施設の耐震化と更新	事業費 (R3～R6)	181,571
------	-----------------	----------------	---------

地震等の自然災害が発生しても被害を最小限にとどめ、水道システムの機能を損なうことのないよう水道施設の更新と耐震化に継続して取り組んでいます。埋金浄水場は、耐震診断の結果、耐震基準を満たしていないことが判明したため、今後は補強工事等の耐震化に取り組みます。

事業名	R3	R4	R5	R6
原町浄水場 施設耐震化事業				
事業費（千円）				
東隈浄水場 施設耐震化事業			設計・工事	
事業費（千円）			30,954	30,000
埋金浄水場 施設耐震化事業		調査・設計・工事		
事業費（千円）	28,490		32,307	59,820
ポンプ施設耐震補強事業				
事業費（千円）				



実現 方策	(2) 配水施設の耐震化と更新	事業費 (R3~R6)	420,041
----------	-----------------	----------------	---------

配水施設については、平成23（2011）年度に各配水池の耐震診断を実施、その結果を受けて、天神山配水池の廃止を決定するとともに、炭焼第2配水池の耐震補強工事を施工しています。今後は、適切な維持管理を行い、各配水池の長期使用に努めながら計画的な更新に取り組みます。また、庁舎については、耐震化はされていますが経年による緊急な修繕等も発生しています。今後は計画的な更新に取り組みます。

事業名	R3	R4	R5	R6
原町浄水場 設備更新事業			設計・工事	
事業費（千円）	21,681	35,348	30,000	64,338
東隈浄水場 設備更新事業			設計・工事	
事業費（千円）	16,368	6,600	4,631	4,631
埋金浄水場 設備更新事業			設計・工事	
事業費（千円）	17,638	33,110	35,573	55,426
配水施設更新事業			設計・工事	
事業費（千円）			22,000	16,000
庁舎大規模改修事業	照明の LED化	屋上防水 議場マイク設 備		消防設備 自動ドア 電話交換機
事業費（千円）	8,910	38,372		9,415

実現 方策	(3) 管路の耐震化と更新	事業費 (R3~R6)	1,631,453
----------	---------------	----------------	-----------

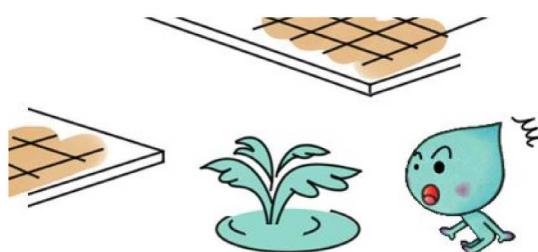
取水施設と浄水施設の築造とともに整備した導水管及び送水管並びに下水道の普及とともに整備した配水管の多くが、近い将来、更新の時期をむかえることから、今後も安定した給水を維持するために計画的な配水管の更新が必要です。更新の対象となる管路の延長が長いため、更新の優先順位を考慮し、管路の耐震化を進めるとともに、計画的かつ効率的に更新し、安定した給水に努めます。

事業名	R3	R4	R5	R6
管路整備事業 (導水管含む)			設計・工事	
事業費（千円）	259,000	605,133	334,620	432,700

2-2 危機管理対策の充実

実現方策	(1) 応急給水体制の充実	事業費 (R3~R6)	-
地震等の災害発生後の被害を最小限に抑え、迅速な応急復旧や応急給水ができるように「危機管理基準」に基づき、応急給水体制の確立や災害資機材等の備蓄、防災訓練等の危機管理対策の充実を図るとともに他の水道事業体等との連携を引き続き推進します。災害が発生した際に、迅速な応急給水ができるように関係団体等との協力体制の構築を図るため、日本水道協会及び福岡都市圏の水道事業体や関係機関等との相互応協定を締結しています。今後もこれらの相互応援協定を通して連携強化に取り組みます。また、給水区域内の避難所には、組み立て式給水タンクを活用し、災害時における応援給水体制の充実を努めます。			
事業名	R3	R4	R5
構成団体との連携強化		継続実施	
応急給水栓の点検		継続実施	
R6			

実現方策	(2) 危機管理訓練の充実	事業費 (R3~R6)	-
地震等の災害発生後の被害を最小限に抑え、迅速な応急復旧や応急給水ができるように「危機管理基準」に基づき、応急復旧や情報伝達等、災害を想定した図上・実動訓練を毎年、実施しています。今後も非常時に備え、継続的に訓練を実施します。			
事業名	R3	R4	R5
危機管理基準の見直しと事業継続計画の策定		継続実施	
計画的な訓練の実施と見直し		継続実施	
浄水場における危機管理訓練		継続実施	
日本水道協会の合同防災訓練への参加		継続実施	
R6			

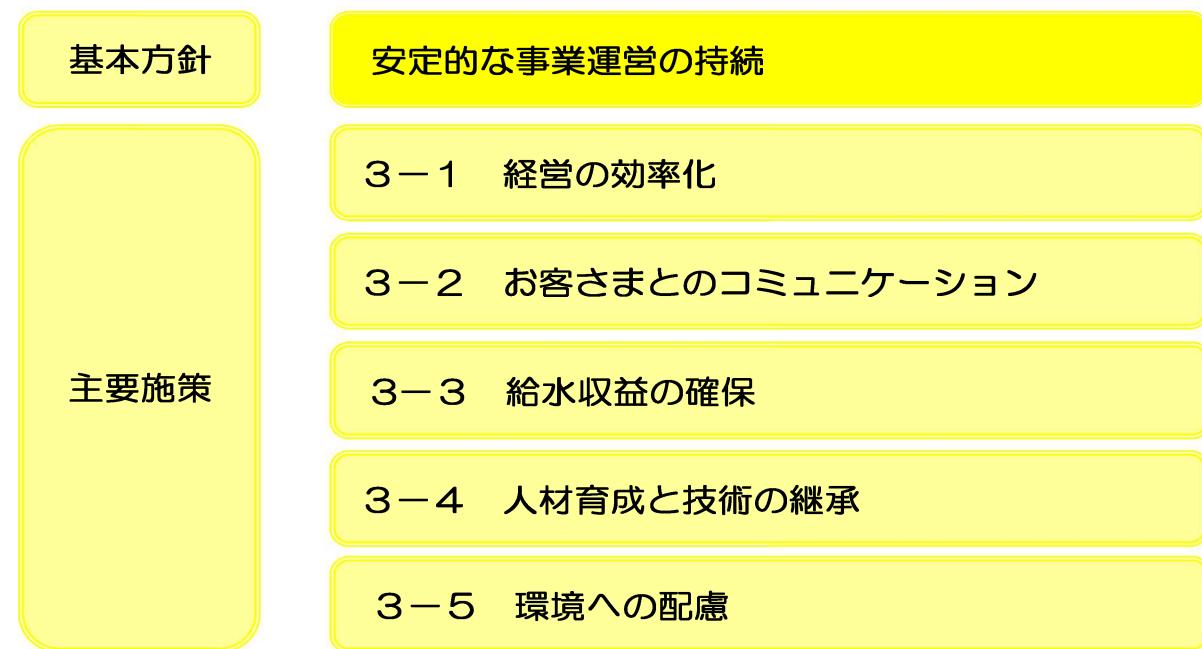


実現方策	(3) 災害用資機材等の備蓄	事業費 (R3~R6)	8,523
災害や事故等により破損した管路等の応急復旧に使用する資材や応急給水に必要な物資等を企業団庁舎及び各浄水場の倉庫に保管しています。今後も災害に備えて、災害用資機材の更新や整理を実施し、適正な管理を継続します。			
事業名	R3	R4	R5
3浄水場災害用資機材の確保		継続実施	
災害用消耗品の備蓄（食料品等）		継続実施	
事業費（千円）	108	108	108
応急給水用品備蓄計画		継続実施	
事業費（千円）	1,196	2,317	2,289
			2,289

実現方策	(4) セキュリティ対策の充実	事業費 (R3~R6)	34,951
企業団で取り扱う情報には、お客さまの個人情報をはじめ水道事業運営上、重要な情報等、外部に漏えいした場合に極めて重大な結果を招く情報が多く含まれています。そのため、情報セキュリティ対策を強化し、情報の目的外使用や外部からの侵入、コンピューターウィルス等による情報の漏えいや喪失防止を図ります。また、お客さまの財産、個人情報を守るためにも、職員のセキュリティに対する意識向上を図るとともに、現代社会に対応したセキュリティ・ポリシーを確立し、セキュリティ対策の充実を図ります。			
事業名	R3	R4	R5
セキュリティ・ポリシーの充実		継続実施	
ネットワークシステムの更新		継続実施	
事業費（千円）	2,407	8,264	21,467
積算システムの情報管理		継続実施	2,813



基本方針3 安定的な事業運営の持続



3-1 経営の効率化

実現方策	(1) 経費の節減	事業費 (R3~R6)	43,743
水需要の減少により給水収益が減少すると見込まれていますが、一方で、経年化した浄・配水場施設や管路の更新事業に要する費用が増加することが予測されています。そのため、今後は、より一層の企業努力による経費の節減は事業者が取り組むべき必須の課題となります。今後も組織の合理化や施設の維持管理を考慮した施設更新等によるライフサイクルコストの低減、資金調達に係る経費の節減に取り組み、構成団体及び近隣事業体との協力体制等を検討しながら、安定した水道事業を継続するための経営の効率化を更に図ります。			
事業名	R3	R4	R5
太陽光発電による電気料金の削減及び機械脱水汚泥の売却	継続実施		
量水器の購入計画及び見直し	継続実施		
事業費（千円）	12,605	11,425	9,112
公用車更新	継続実施		
電力契約の検討	調査研究		
業務用無線機更新			継続実施
事業費（千円）		400	40

実現方策	(2) 外部委託化の推進	事業費 (R3~R6)	-
水道事業の経費節減や経営の効率化、給水サービスの向上を図ることを目指し、企業団では、水道料金の電話対応・検針等業務や浄水場の運転管理を業務委託しています。今後は、浄・配水施設の運転管理などの包括的な委託や様々な官民連携手法について導入の可能性を検討します。			
事業名	R3	R4	R5
運転管理業務の見直し及び包括的業務委託の推進		継続実施	
官民連携の検討		継続実施	

実現方策	(3) 組織の合理化と定員管理の適正化	事業費 (R3~R6)	-
企業団は、給水人口10~30万人未満、職員数25人以上50人未満、主な水源や浄水受水率などの割合が類似している6団体と比較すると、職員一人当たり有収水量が類似事業体より低い状況となっています。類似事業体とされる6団体は自治体であり、企業団とは事業運営の形態が異なるため、一概に比較できませんが、一つの指標として受け止め、今後も定員管理の適正化により、効率的な経営が可能な組織体制の構築を目指し、組織の合理化に努めます。			
事業名	R3	R4	R5
定員管理計画の見直し		継続実施	

実現方策	(4) 広域化の検討	事業費 (R3~R6)	-
福岡県が平成18（2006）年10月に策定した福岡県広域的水道整備計画に掲げる水道広域化を推進するため、福岡県及び近隣事業体で構成する福岡圏域ブロックにおいて、広域化及びシステム共同化、資材の供給等の実現可能な方策から検討を始め、広域化の可能性について調査、研究を進めます。また、福岡県が令和元（2019）年3月に策定した「福岡県水道ビジョン」においては福岡圏域ブロックの問題点や脆弱な部分を指摘されており、今後はそれらの情報等も生かしながら協議・連携を広げていきます。			
事業名	R3	R4	R5
広域化の検討		継続実施	

実現方策	(5) 業務の効率化と高度化	事業費 (R3~R6)	43,159
業務の効率化・高度化を目的にICTを活用しています。管路や施設の管理にはマッピングシステムを導入し、職員間での情報共有を可能にしています。また、各浄水場で取水状況や配水池の水位・流量など、水道施設の運転状況を集中監視し、操作を行っています。今後も職員の操作研修や高度な施設や管路の管理にむけた職員の育成にも取り組みます。			
事業名	R3	R4	R5
運転管理業務の見直し及び包括的業務委託の推進		継続実施	
積算システムの更新		継続実施	
事業費（千円）	1,272	1,282	1,282
竣工図面電子化業務		継続実施	
事業費（千円）	396	308	500
水道料金システムの更新		継続実施	
事業費（千円）	5,563	10,229	2,375
給与システムの更新		継続実施	
事業費（千円）	2,480	1,530	1,530
公営企業会計システムの更新		継続実施	
事業費（千円）	2,606	2,606	2,606
			907

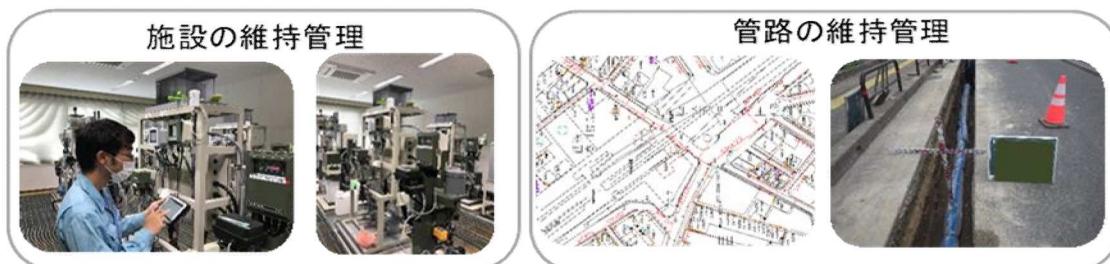
実現方策	(6) アセットマネジメントによる効率的な経営	事業費 (R3~R6)	-
今後増加する更新需要に対し、中長期的な視点をもって更新需要や財政収支の見通しを立て、財政負担を平準化することにより、計画的かつ効率的に施設の更新を行うことが必要です。そのため、ライフサイクルコストの低減に取り組むため、アセットマネジメント手法による資産の的確な把握と適切な維持管理により施設更新の適正化を図ります。			
事業名	R3	R4	R5
アセットマネジメント策定業務委託検討		調査研究	

実現方策	(7) 国・県への要望	事業費 (R3~R6)	-
全国の水道事業体で組織する（公社）日本水道協会や全国水道企業団協議会を通じ、起債の繰上げ償還基準や水道事業関係補助金の交付基準等の緩和、その他水道事業を取り巻く法的・制度的障壁について改善等を継続して国へ要望します。			
事業名	R3	R4	R5
河川における堆砂除去の要望	継続実施		

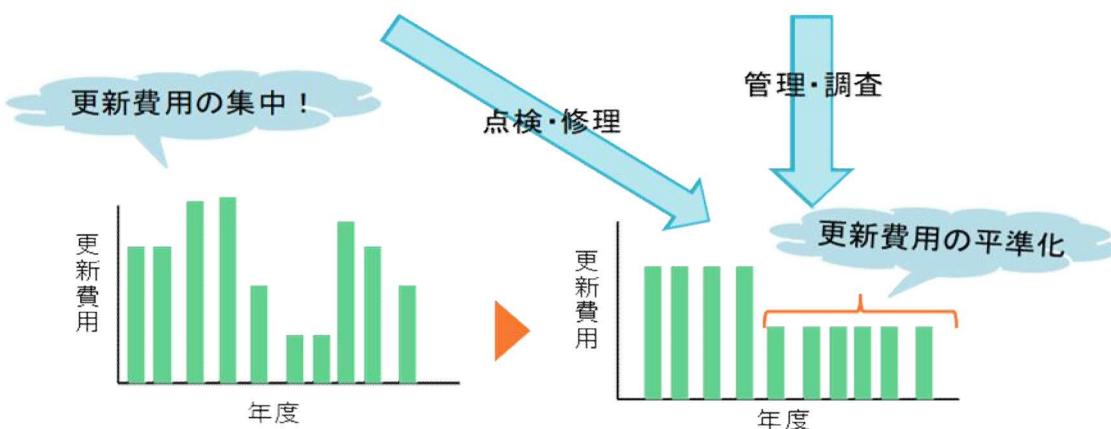
コラム

アセットマネジメントのイメージ

中・長期的な視点で、技術的な知見に基づいた施設整備・更新需要の見通しを検討し、財政状況を考慮しながら、計画的に更新を行うことをアセットマネジメントと言います。なお、施設や設備を長く使うためには、適切な維持管理が必要です。



適切な維持管理による施設・管路の長寿命化



3-2 お客様とのコミュニケーション

実現方策	(1) 水道事業の啓発	事業費 (R3~R6)	2,919
------	-------------	----------------	-------

お客様に水道事業への理解と関心を深めていただくために、水道週間イベントや施設見学等、様々なイベントを実施してきました。今後も各種イベント内容の充実を図り、より多くのお客さまに対し水道事業の現状を理解していただくための取組みを実施します。

事業名	R3	R4	R5	R6
ホームページの更新			継続実施	
事業費（千円）	500	650	650	650
イベントの実施			継続実施	
事業費（千円）	19	150	150	150

実現方策	(2) 広報広聴活動の充実	事業費 (R3~R6)	11,672
------	---------------	----------------	--------

広報紙「水レター」を平成11（1999）年度に創刊し、平成13（2001）年度には、ホームページを開設しています。これにより水道事業の運営状況や企業団の概要等について、お客様へ情報提供を行う等広報広聴活動に取り組んでいます。今後も水道事業を取り巻く状況をお客さまへ丁寧に説明し、理解を深めていただくために、お客様とのコミュニケーションを図り、よりよい関係を構築することに努めます。

事業名	R3	R4	R5	R6
給水装置の維持管理方法等の情報発信			継続実施	
情報公開制度の徹底、水レター記事の充実			継続実施	
事業費（千円）	2,918	2,918	2,918	2,918

3-3 給水収益の確保

実現方策	(1) 水道料金収納への対応	事業費 (R3~R6)	426
------	----------------	----------------	-----

お客さまの利便性の向上や収納方法の拡充等のため、令和3年度にスマートフォン決裁アプリ導入に伴う水道料金システムの改修を実施し、令和4年度からスマートフォン決済アプリ導入予定としています。今後も多様化するお客さまニーズへの対応として、費用対効果を考慮しながら新たな収納方法の導入等に取り組みます。

事業名	R3	R4	R5	R6
水道料金収納方法拡大		pay払い（R4～）、更なる収納方法の検討		
事業費（千円）	426			

3-4 人材育成と技術の継承

実現方策	(1) 職員の技術水準の確保	事業費 (R3~R6)	11,422
------	----------------	----------------	--------

水道事業を安定して運営するためには、企業経営を適切に把握し運営する職員や、技術分野で浄水場の運転管理や機械設備に精通した職員、管路の設計・施工に精通した職員、また危機管理対策を実践できる職員など、多様な人材を育成する必要があります。「研修計画」に基づき、各種研修を行っています。この計画では、外部講習への参加や、企業団内での内部研修を通じて、新しい技術の習得やこれまで培ってきた技術のノウハウを職員間で共有し、職員全体の技術水準の向上に取り組み、次世代に継承していくことを目的としています。今後もこの計画に基づきOJTの実践や、技術と知識の向上に努め、その技術を次世代へ継承していきます。

事業名	R3	R4	R5	R6
浄水場運転管理に必要な資格取得		資格取得講習への参加		
事業費（千円）		121	121	121
現場管理実習及び内外部研修		継続実施		
人材育成・技術の継承		継続実施		
研修制度の充実		継続実施		
事業費（千円）	1,750	3,103	3,103	3,103

3-5 環境への配慮

実現方策	(1) 環境に配慮した事業の推進	事業費 (R3~R6)	-
水道事業は、自然の水環境の恩恵により成り立っていることから、環境に配慮した事業運営が求められています。環境に配慮した事業の推進として平成29（2017）年度に東隈浄水場の太陽光発電設備を導入しました。この成果は、温室効果ガスの削減にとどまらず、動力費の削減等、経営面においてもプラス効果をもたらしています。他にも再生紙の使用、低エネルギー車の導入等において環境への配慮を行っています。さらに、浄水処理の過程で発生する発生土は、花や野菜の植物を育てる土として利用することで処理費用を削減しています。今後の取組みについては、既存の太陽光発電設備などの再生可能エネルギー設備を継続して活用するとともに、設備の更新時には高効率設備の導入や新たな再生可能エネルギー設備の導入を検討するなど、二酸化炭素等の温室効果ガスの排出量削減を図り、環境負荷の低減に努めます。また、国際社会の一員として、国際目標であるSDGsを実現できるように取り組んでいきます。			
事業名	R3	R4	R5
環境負荷の低減	継続実施		
建設資材の有効活用	継続実施		
一斉定時退庁、ノーマイカーデーの推進	継続実施		
R6			



※主要事業計画の留意点

R3及びR4については実績値又は見込値を表記しています。
R5及びR6については、予定値を表記しています。
表記内容は、令和4年4月時点のものであり、諸事情により変更になる場合があります。

4. 財政の見通し

(1) 前期実施計画における財政の見通しの概要

① 単年度利益の確保

管路の更新等により費用（減価償却費等）が増加し損益が悪化する影響を最小限に抑えるため、収入の確保や経営の効率化、経費節減などに取り組み、単年度利益を確保します。

② 内部留保資金の適正な運用

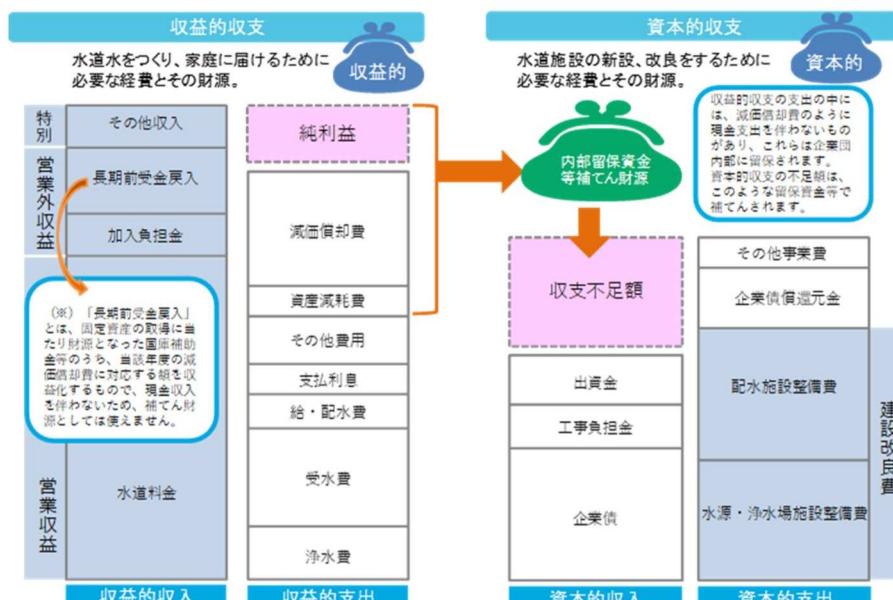
水道事業の健全な運営に必要な内部留保資金（減価償却費等の損益勘定留保資金及び未処分の利益剰余金など）について検証を行い、建設改良事業への投資に利用しつつ、内部留保資金として適正な資金を確保します。

③ 企業債残高の縮減

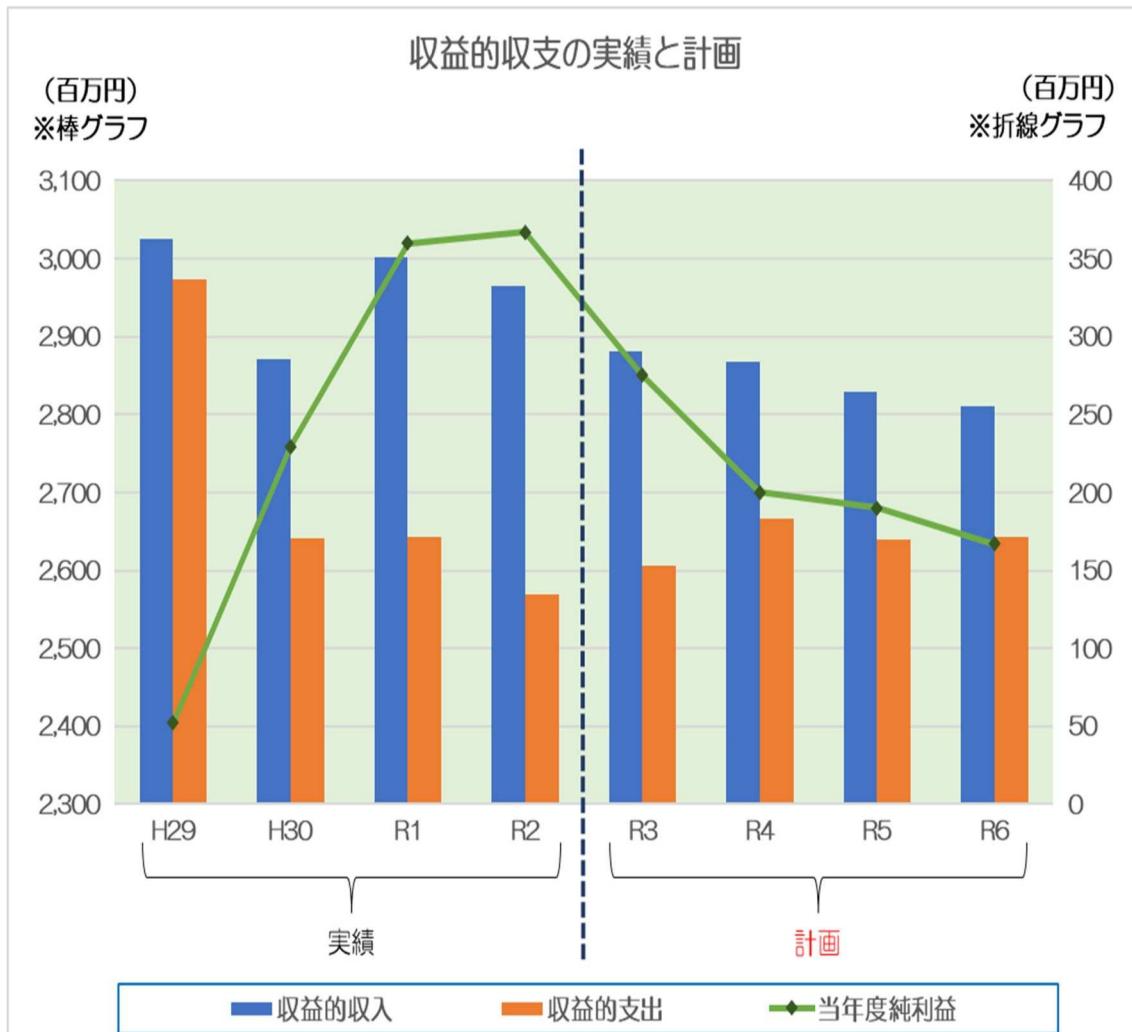
効果的かつ効率的な資金調達を行うことで、前期実施計画期間内における企業債残高を縮減します。

④ 現行料金の維持

①から③に取り組むことで、前期実施計画期間内においては、水道事業の安定的な経営が可能となることから、水道料金の改定は行いません。



(2) 収益的収支

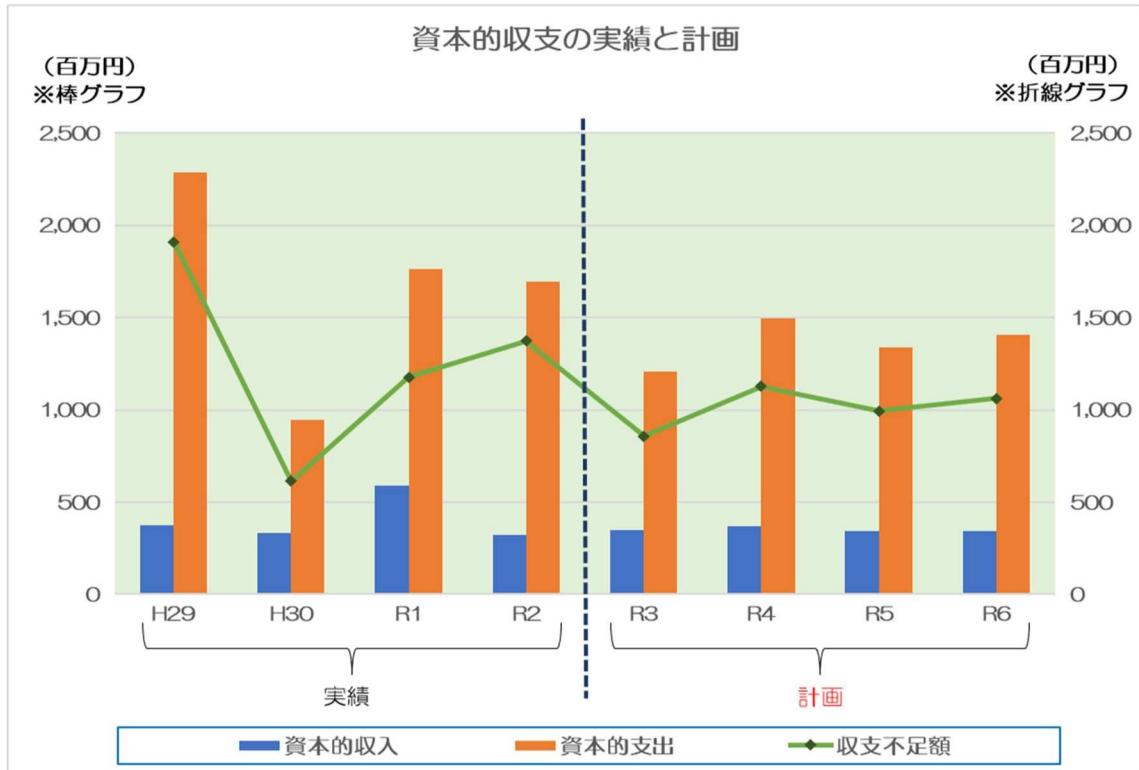


	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
収益的収入	3,025	2,870	3,002	2,965	2,881	2,867	2,829	2,810
うち料金収入	2,321	2,266	2,309	2,374	2,340	2,324	2,322	2,312
収益的支出	2,973	2,641	2,642	2,569	2,606	2,667	2,639	2,643
当年度純利益	52	229	360	367	275	200	190	167

収益的収支について

収入が微減する傾向を示す一方、支出は H29 を除き、ほぼ横ばいとなる見込みのため、当年度純利益も減少傾向ですが、前期実施計画期間内においては一定の利益を確保できる見通しです。

(3) 資本的収支



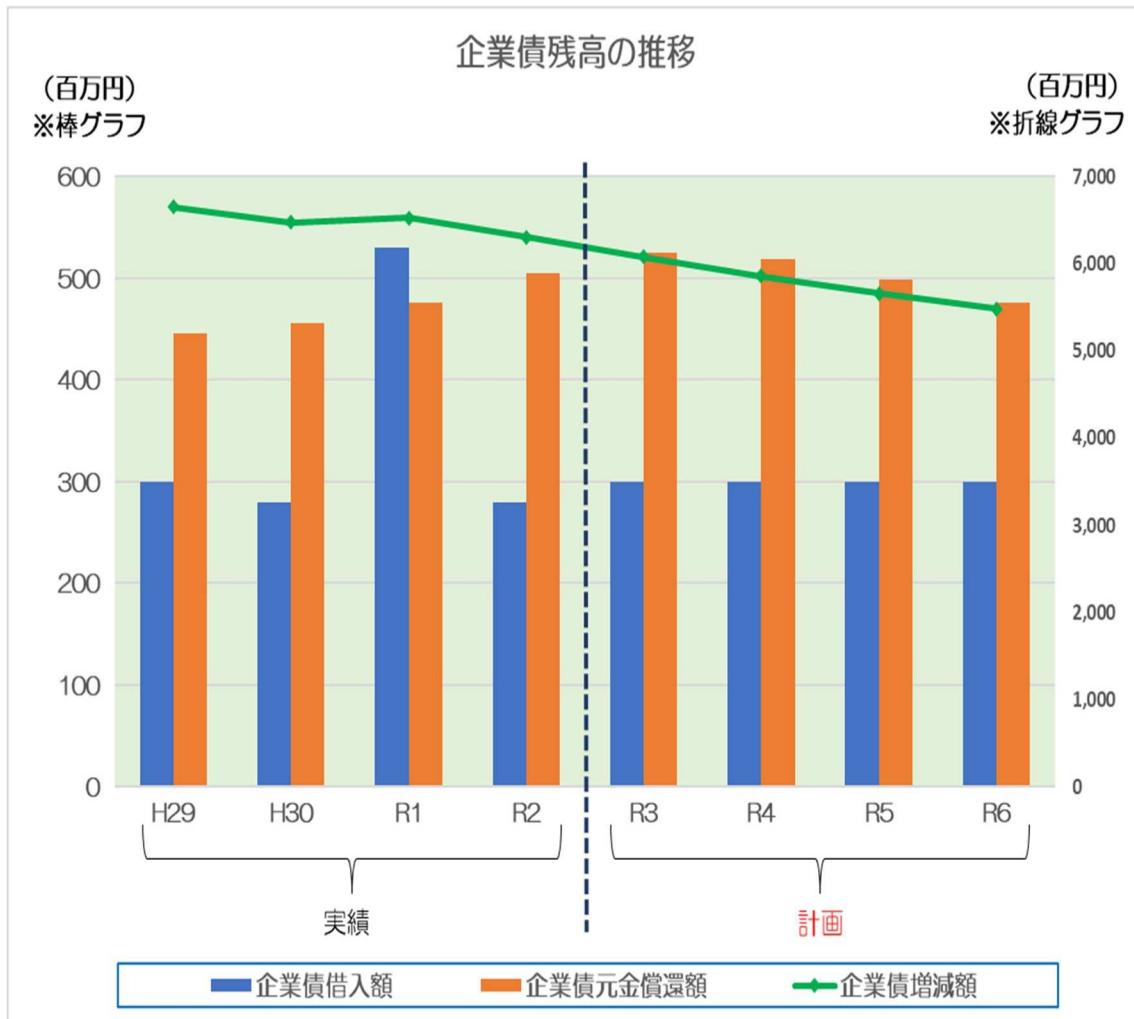
	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	(消費税込み 単位：百万円)
資本的収入	375	330	588	321	347	370	342	342	
うち企業債	300	280	530	280	300	300	300	300	
資本的支出	2,285	945	1,765	1,696	1,205	1,497	1,337	1,404	
収支不足額	1,910	615	1,177	1,375	858	1,127	995	1,062	
補てん財源	1,910	615	1,177	1,375	858	1,127	995	1,062	
損益勘定留保資金	1,609	585	1,074	1,276	806	850	727	786	
利益剰余金	200	0	0	0	0	200	200	200	
消費税資本的収支調整額	101	30	103	99	52	77	68	76	
	実績				計画				

資本的収支について

支出は、新規水源確保のため先送りしていた管路整備事業等が本格化していくことから、引き続き、12億円を超える水準で推移する見通しです。

収入は、支出の財源となる企業債借入金や一般会計からの繰入金等であり、収支は8～11億円程度の不足を見込んでいますが、減価償却費等の損益勘定留保資金や利益剰余金を活用して補てんする予定です。

(4) 企業債残高



	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
企業債借入額	300	280	530	280	300	300	300	300
企業債元金償還額	446	456	476	505	525	519	499	476
企業債増減額	△ 146	△ 176	54	△ 225	△ 225	△ 219	△ 199	△ 176
企業債残高	6,649	6,473	6,527	6,302	6,077	5,858	5,659	5,483

実績

計画

企業債残高について

企業債借入額を元金償還額の範囲内に抑え、定額化することにより、前期計画期間中（R3からR6まで）に約5億円の企業債残高を縮減します。

(5) 財政収支実績

収益的収支（消費税抜き）、資本的収支（消費税込み）

(単位：千円)

項目	年度	H29	H30	R1	R2
水道事業収益		3,025,424	2,870,367	3,002,486	2,965,396
料金収入		2,321,720	2,266,619	2,309,286	2,373,994
その他		703,704	603,748	693,200	591,402
水道事業費用		2,973,860	2,641,078	2,642,894	2,568,658
人件費		379,448	364,990	353,463	364,800
物件費		1,189,208	1,161,879	1,132,199	1,075,710
減価償却費		1,215,059	979,589	1,036,309	1,023,829
支払利息		131,856	121,845	111,144	100,281
その他		58,289	20,147	9,779	4,038
当年度純利益		51,564	229,289	359,592	396,738
資本的収入		375,162	330,298	588,075	321,086
企業債		300,000	280,000	530,000	280,000
その他		75,162	50,298	58,075	41,086
資本的支出		2,285,132	945,145	1,765,035	1,696,127
建設改良費		1,807,402	458,405	1,249,621	1,152,159
企業債償還金		446,018	455,623	476,434	505,031
その他		31,712	31,117	38,980	38,937
資本的収支不足額		1,909,970	614,847	1,176,960	1,375,041
補てん財源		1,909,970	614,847	1,176,960	1,375,041
損益勘定留保資金		1,609,832	585,396	1,074,179	1,275,806
利益剰余金		200,000	0	0	0
消費税資本的収支調整額		100,138	29,451	102,781	99,235

企業債残高	6,648,816	6,473,194	6,526,760	6,301,729
-------	-----------	-----------	-----------	-----------

(6) 財政収支見通し

収益的収支（消費税抜き）、資本的収支（消費税込み）

(単位：千円)

項目	年度	R3	R4	R5	R6
水道事業収益		2,881,241	2,867,240	2,829,258	2,810,254
料金収入		2,340,715	2,324,114	2,322,084	2,312,122
その他		540,526	543,126	507,174	498,132
水道事業費用		2,605,953	2,667,304	2,638,868	2,642,563
人件費		352,848	357,698	340,126	341,598
物件費		1,101,816	1,132,906	1,184,768	1,189,530
減価償却費		1,020,055	1,031,683	1,024,659	1,028,469
支払利息		89,666	79,927	75,653	69,268
その他		41,568	65,090	13,662	13,698
当年度純利益		275,288	199,936	190,390	167,691
資本的収入		347,330	370,022	342,000	342,000
企業債		300,000	300,000	300,000	300,000
その他		47,330	70,022	42,000	42,000
資本的支出		1,205,472	1,496,972	1,336,879	1,404,376
建設改良費		630,650	907,639	792,968	883,379
企業債償還金		524,734	519,259	498,823	475,909
その他		45,088	65,074	45,088	45,088
資本的収支不足額		858,142	1,126,950	994,879	1,062,376
補てん財源		858,142	1,126,950	994,879	1,062,376
損益勘定留保資金		806,275	850,404	726,609	785,887
利益剰余金		0	200,000	200,000	200,000
消費税資本的収支調整額		51,867	76,546	68,270	76,489

企業債残高	6,076,995	5,857,736	5,658,913	5,483,004
-------	-----------	-----------	-----------	-----------

5. 進捗管理と計画見直し

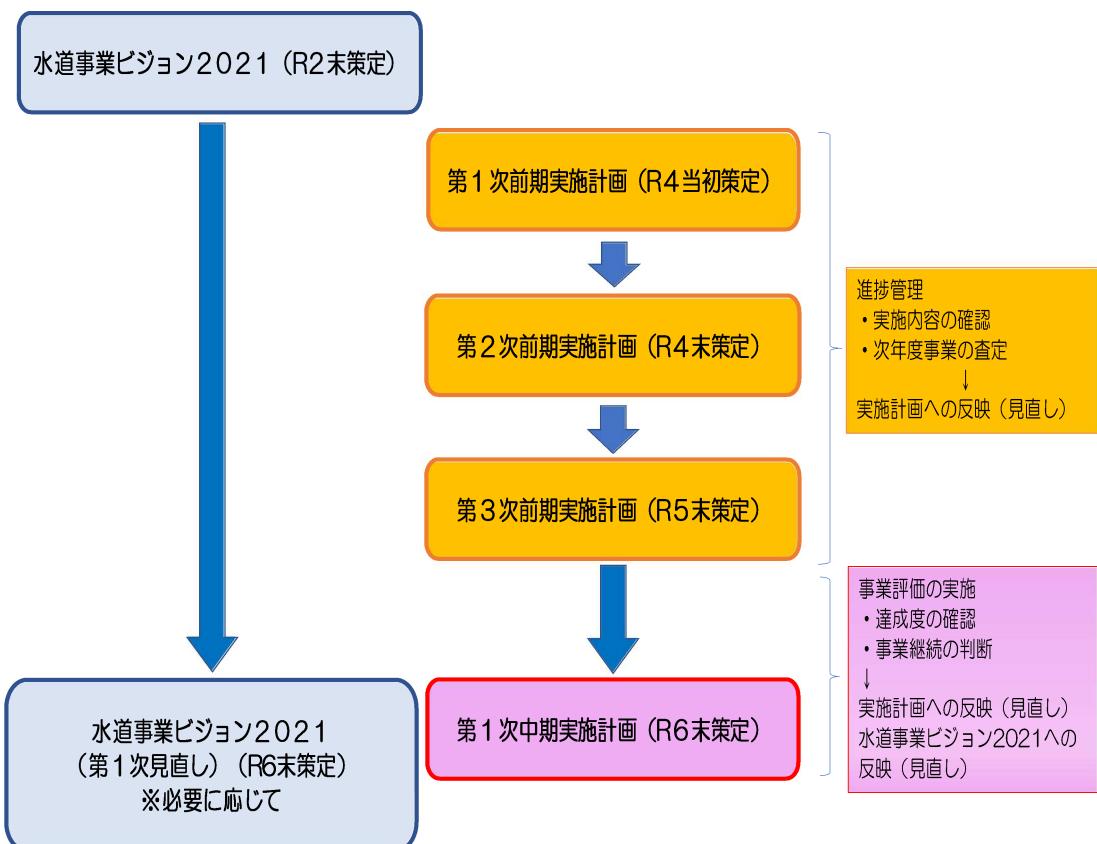
(1) 進捗管理

前期実施計画に掲げた主要事業計画については、毎年度進捗状況を確認します。また、費用を伴う事業については、予算計上にあたり、事業採択に係る査定を行い、事業内容、費用及び手法等を明確化します。

(2) 事業評価と計画見直し

前期実施計画は、進捗管理を踏まえて毎年度見直しを図ります。

また、前期実施計画の最終年度である令和6年度には、事業評価を行い、事業の達成度を評価します。評価結果を踏まえ、必要に応じて水道事業ビジョン2021を見直すとともに、見直し後の水道事業ビジョン2021に係る中期実施計画を策定します。



進捗管理及び見直しのフロー



春日那珂川水道企業団キャラクター「うお～たん」です。
名前は一般公募によりネーミングされました。
水のしずくをイメージして平成 15（2003）年2月から活躍しています。
庁舎内はもちろんのことホームページや水道週間などのイベントでも見
ることができます。
これからもよろしくお願ひします。

春日那珂川水道企業団水道事業ビジョン2021
第1次前期実施計画

春日那珂川水道企業団 総務課企画係（令和4年4月）
〒816-0804 春日市原町二丁目30番地2
TEL 092-571-7001
FAX 092-574-4960
E-Mail kikaku@kasuga-nakagawa-suido.or.jp
<https://kasuga-nakagawa-suido.or.jp>